



そよ風

大阪市立大学医学部附属病院



発行/大阪市立大学医学部附属病院
良質(QC)医療委員会
〒545-8586
大阪市阿倍野区旭町1丁目5番7号
TEL 06-6645-2711
http://www.med.osaka-cu.ac.jp/hosp/

2007年7月
第3号



当院は、財団法人日本医療機能評価機構の最新基準である
病院機能評価 (Ver. 5.0) の認定病院として
『認定』されました。

病院機能評価とは、患者さまが安心して質の高い医療が受けられるよう、財団法人日本医療機能評価機構が医療機関を中立的な第三者の立場から審査し、医療機関の質や機能を評価するものです。

当院は、本年3月に財団法人日本医療機能評価機構の最新基準である病院機能評価(Ver.5.0)を受審し、「書面審査」及び「訪問審査」の多岐にわたる厳しい審査の結果、高い評価を受けることとなり、本年5月28日付で晴れて『認定証』の交付を受けました。

同『認定証』の交付を受けた病院は、全国9014病院中、平成19年



5月28日現在、505病院で全国の病院の5%にすぎません。

このたびの認定にあたり、病院職員一同、さらに患者さま中心の安全で質の高い医療の提供を推進すべく、新たな気持ちで努力する所存です。

七夕コンサートを開催しました

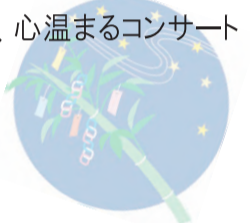
去る7月6日(金)、入院患者さまに楽しい時間を過ごしていただくために、恒例の院内「七夕コンサート」が開催されました。

今回は市大医学部オーケストラのみなさんの演奏で、アンサンブル「カノン」に始まり、オーケストラによる「ラデツキー行進曲」や「E.T.のテーマ」等、またコンサート後半には「たなばた」や「われは海の子」の合唱もあり、懐かしいメロディーを会場の皆さまと一緒に楽し



オーケストラの熱のこもった演奏を楽しんでいただきました

んでいただき、心温まるコンサートになりました。



病院ボランティアを募集しています！！

◆活動内容◆

- ・外来を中心とした患者さまへの院内案内
- ・車椅子をお使いの患者さまやお身体の不自由な患者さまの移動介助
- ・縫製作業(点滴着、ストーマ袋等の作成)

◆お問合せ先◆

〒545-8586
大阪市阿倍野区旭町1-5-7
大阪市立大学医学部附属病院
庶務課 忍(しのぶ)・松井
電話:06-6645-2711
FAX:06-6632-7114

ICTは院内感染の番人

～院内感染ゼロをめざして～

病気になると細菌やウイルスなどの感染に対し抵抗する力が弱くなります。特に高度な医療は抵抗力を低下させる場合もあり、感染の危険性が高まる場合があります。

高度先進医療を担う当院では病院における様々な感染を防止するため、感染管理認定看護師(ICN)の資格をもった専任感染管理者を中心に医師(ICD)、看護師、薬剤師、臨床検査技師、事務職員が院内感染防止対策チーム(ICT)としてそれぞれが持つ専門知識・能力・情報を効率的に結集し、院内感染を防止するために協力して活動を行っています。具体的にはMRSAなどの耐性菌を監視するための最新機器によるサーベイランス(監視)や血流感染のサーベイランスを行い、病院全体の感染症

の状況を把握することはもとより、エビデンス(科学的根拠)に基づいた感染防止対策やアウトブレイク(集団発生)時の対応、院内感染対策マニュアルの作成、抗菌薬の適正使用の指導、病院職員へのインフルエンザワクチン接種、感染性廃棄物を含むごみ分別の適正化などを行うとともに、これらの対策を徹底するためおよび職員自身の感染を防ぐために、講習会だけでなく、インターネットによるeラーニングを用いて職員教育を行っています。

ICTはこれからも患者さまが安心して安全な医療を受けられるように、院内感染ゼロを目指して活動を続けていきたいと考えています。

感染管理 認定看護師

～看護の視点を生かして感染管理～

患者さまが安心して安全な医療を受けられるようにするためには、院内感染を防止することは重要です。そのためには、病院に勤務するすべての職種が協力し、病院全体で取り組まなければなりません。その中で、看護師は日々のケアを通して、直接感染防止を実践していることに加え、患者さまの様子を観察し、感染の徴候を発見できる立場でもあります。患者ケアを重視した看護の視点と、専門的な知識に基づいた感染管理者の視点をあわせ持つ感染管理認定看護師が、院内感染防止の推進役となることの意義は大きいといわれています。

現在、私は専任の感染管理者として、ICTメンバーと協力しながら院内感染防止活動を行っています。看護師としての視点を生かし、各ICTメンバーの調整役としての役

割も担っています。また、各病棟には感染防止に取り組むリンクナースが配置されていますので、その人たちと協力し、感染防止対策の浸透に努めています。特に、感染を防止するためには、いかに各自が適切な対策を実践できるかが重要ですので、日々の診療やケアの中での疑問や困っていることの相談にのり、また、看護師や医師をはじめ、さまざまな職種に対する研修会を企画し、実際の手洗いの指導などを行っています。



きちんと手洗いをしているか確認しています。

診療科紹介 呼吸器内科

呼吸器病態制御内科学(呼吸器内科)教授 平田 一人

呼吸器内科は、気道・肺・胸膜・縦隔など呼吸器に関する疾患を診療する内科ですが、具体的には気管支喘息患者、COPD(*1)などの閉塞性肺疾患、呼吸器感染症、肺癌、間質性肺疾患と非常に多岐にわたる領域の診療に当たっています。肺癌に関しては国家レベルで癌専門医による集学的治療が求められており、多彩な抗癌化学療法、放射線療法などにより生存率の向上を目指し、また外来化学療法センターが開設され、これによりQOL(生活の質)・治療の効率化の向上を目指しています。

呼吸器領域の専門的な検査として胸部

CTはもちろん、気管支鏡、気道過敏性検査、呼吸器運動負荷試験、必要に応じてPET検査を行っており、診断治療の質の向上に努めております。また在宅酸素療法・在宅人工呼吸器を行い通院されている患者さまもたくさんおられます。

すべての呼吸器疾患に幅広く対応できるように月から金まで2名以上の診察医が常在し外来診療を行っています。当科ではとくに地域のかかりつけの医師との連携が重要と考えておりますので、まずかかりつけの医師や近くの医師とご相談のうえ、呼吸器内科を受診いただければと思います。

(*1)COPD:
慢性閉塞性肺疾患
(主にタバコに関連した慢性の肺疾患)



診療科紹介 呼吸器外科

循環器外科学(呼吸器外科)講師 西山典利

呼吸器外科では原発性肺癌をはじめ、各種原発臓器からの転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍など多様な手術を年間180-190例行っています。

手術においては、安全性や確実性を損なうことなく、かつ患者さまの身体の負担を減らすように工夫を凝らしており、多くの手術は小開胸併用による胸腔鏡下手術で行っています。

中心となる疾患はやはり肺癌で、近年、画像診断法の進歩にともない、いわゆる早期肺癌が多く発見されるようになってきています。気管支鏡やCTガイド下生検といった従来の診断方法では診断し得なかった末梢小型肺病変に対しても、胸腔鏡を用いた診断や治療に積極的に取り組んでいます。

一方、進行肺癌の診療においては呼吸器内科や放射線科との緻密な連携のもと、術前術後の補助療法な

り集学的治療にも取り組んでいます。さらに循環器外科、肝胆膵外科、小児外科との全面的な協力のもと、一般病院では困難な多領域にまたがる難易度の高い拡大手術や、重度の合併症を持った方や低肺機能の方に対する縮小手術にも積極的に取り組み良好な成績を収めています。

呼吸器外科の初診は月・火・木曜日です。心配なこと、不安なことがあればお気軽にご相談ください。



「実際に患者さんを診る前に」 ～体験型研修 スキルシミュレーションセンター (SSC) について～

卒業医学教育学/附属病院総合診療センター 首藤太一

すべての医療行為(採血、縫合、内視鏡検査など)には何らかのリスクをとまなうことは必然です。しかしこれまでの医療教育では、これらの行為を実際の患者さんに対して、はじめて行わせることもまれではありませんでした。一方、さきごろ胴体着陸した飛行機のパイロットが、「前輪がでないケースもシミュレート(模擬訓練)していたので、不安はなかった」と話したように、技能を要求される他の職種では、シミュレーション教育は常識化しており、欧米では医療教育においても日常的に導入されています。確かに技術の向上には、現場での経験に勝るものはないのですが、本邦でもシミュレーション教育を医療研修に用いる動きも広まってきました。

大阪市立大学医学部附属病院(当院)ならびに総合診療センターでは、平成17年度文部科学省の「地域医療等社会的ニーズに対応した医療人プログラム」の

援助を利用して、医学・看護学生や臨床研修医にシミュレーション教育を実施する施設の開設準備を進めておりました。昨年12月に阿倍野メディックスビル8階メディカルフォーラム(約250㎡)を、スキルシミュレーションセンター(Skills Simulation Center; SSC)として使用することが認められ、本年3月から平成19年度新規採用臨床研修医に対する心肺蘇生講習会から運用をはじめております。そのほかにも静脈採血、中心静脈内カテーテル挿入、外科基本手技、腹部超音波検査などの講習会を随時研修医や新人看護師に行っております。また巷で話題となっておりますAED(自動体外式除細動器)の講習会を病院職員に本年4月から隔週で実施しており、この受講者100名を含め、利用者は既に600名におよびます。AED講習会はインストラクターに医学部学生を起用しており、「教える」という行為で、学

生達の学習効果にも連なるユニークな試みだと新聞報道もされました。

今後は利用対象者をひろげ、近隣住民や中高生に対する各種講習会を提供することも視野に入れていきます。また一度現場を退いた看護師や女性医師の復帰プログラムへの活用や、近隣医師会の医療機関職員にも利用いただけるよう努めていきたいと思っております。

SSCの活動をはじめ、次世代の医療人を育てる大学病院の使命と取り組みについて、引き続きご理解とご協力くださいますようお願い申し上げます。



クレジットカード、デビットカード が使えます。

7月より診療費のお支払いに、クレジットカード・デビットカードが利用できるようになりました。

1. お使いいただけるクレジットカード



2. お使いいただける場所と時間

病院1階会計窓口及び自動支払機:
平日9時~17時15分
病院地下1階時間外受付:
平日上記時間外、土・日・祝日

3. お取り扱い上のご注意

- (1) 1回払い(ボーナス一括払いは除く)分割払い(2回払いは除く)、リボルビング払い
- (2) 暗証番号の入力が必要になります。
- (3) 利用限度額をご確認の上、ご利用ください。
(限度額についての詳細は、各カード会社にお問い合わせください。)

お問い合わせ先

医事運営課医事担当
TEL 06-6645-2853
(月曜日から金曜日の9時~17時15分)
※ただし、祝日・年末年始(12月29日~1月3日)を除く。

大阪市立大学医学部附属病院の概要

所在地 〒545-8586 大阪市阿倍野区旭町1丁目5番7号 初診受付時間 午前9時~午前10時30分
電話 (06)6645-2121(代表) 休診日 土・日・祝日、12月29日~1月3日

診療科

総合診療センター、循環器内科、呼吸器内科、膠原病内科、生活習慣病・糖尿病センター、腎臓内科、骨・リウマチ内科、消化器内科、肝胆膵内科、小児科・新生児科、神経精神科、皮膚科、放射線科、放射線治療科、核医学科、消化器外科、乳腺・内分泌外科、肝胆膵外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、脳神経外科、整形外科、リハビリテーション科、泌尿器科、女性診療科(産婦人科)、眼科、耳鼻いんこう科、麻酔科・ペインクリニック科、形成外科、血液内科・造血細胞移植科、老年科、神経内科

※本院は、専門医療を中心に医療を提供していますので、受診するには原則、診療情報提供書(紹介状)が必要です。

ただし、早期発見・早期治療の観点から一部の診療科では紹介状がなくても受診は可能です。

その場合は初診料とは別に2,620円(助産は2,500円)をお支払いいただきます。

